

～感性コミュニケーションツール～

「高齢者のためのメールインタフェースの設計と開発」

着目した問題点

現在、コミュニケーションをとる手段として、若・青・中年層にとってインターネット、特に電子メールは欠かせないものになっています。しかし、60歳以上の高齢者のメール使用率は年々上がっているものの、他の年齢層の使用率と格差があります。

研究目的

高齢者の方に操作が容易で親しみやすいメールツールの必要性が高まっています。その為どのような設計をすれば使いやすいメールツールが出来るのかを調べ、高齢者の方のメール使用率が上がることで世代間のコミュニケーションの頻度が上がる事を目標として研究を進めています。

設計上の留意点の例

- ・ 専門用語は避ける(「メール」「クリック」など) 専門用語があると、苦手意識を持つ
- ・ 画面、文字サイズが大きくなる 見やすく、操作性が向上する
- ・ 現在のモードをわかりやすく、操作を一方通行にする 誤作動を少なくする為
- ・ テキスト入力ではなく、タブレットペンでの手書き入力にする
高齢者はキーボード操作が最も難解でペン入力により普段の手紙を書く動作に近づける
- ・ 縦書きで手紙が書けるようにする 高齢者が親しんだ手書きの手紙のイメージを保つ

高齢者による使用評価実験の実施

本研究では、開発したメールインタフェースを実際に高齢者に使用していただくことでインタフェースデザインの改良を続けていきます。図1に高齢者のメールインタフェースの使用風景を、図2に高齢者が実際にタブレットペンで作成した手紙を示します。



図1 タブレットペンを使用する高齢者

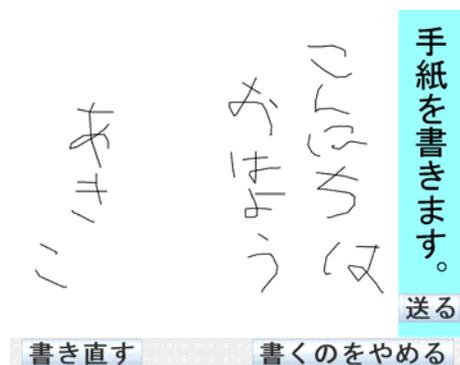


図2 高齢者が実際に書いた手紙